

2010年6月17日
日立マクセル株式会社

中小型産業用 ラミネート形リチウムイオン電池の量産開始 ～富山工場の生産設備に新規投資～

日立マクセル株式会社(取締役社長:角田 義人)は、市場拡大が見込まれる中小型産業用として、ラミネート形リチウムイオン電池の生産設備に約20億円を投資し、2011年4月より量産を開始する計画です。

リチウムイオン電池は、携帯電話やノートPC、デジタルカメラなど民生用携帯機器の用途を中心に市場を拡大しており、今後、ハイブリッド自動車や電気自動車などの車載用途や産業用途などへの応用が期待されています。これらの市場は応用範囲が広く、リチウムイオン電池の使われ方もそれぞれの応用分野によって異なるため、電池性能に対する要求が多岐に渡ってきます。

ラミネート形リチウムイオン電池は、独自開発の耐熱セパレーターとマンガン系正極材料の採用により、安全性を十分に考慮した設計とするとともに、アルミニウムラミネート外装を採用しており、放熱性に優れた構造を特長としています。電動二輪車や無人搬送車、無停電電源装置といった産業用途、可搬型電源装置やスマートグリッド用途などに求められる、高い安全性や長寿命を実現し、信頼性に優れた電池の提供を可能としました。

このような中、マクセルでは、これまでにラミネート形リチウムイオン電池の組立実績のある富山工場(旧 マクセル北陸精器株式会社)に、約20億円を投資して生産設備を導入し、2011年度より量産を開始します。今回導入する生産設備は、独自の高精度組立技術を採用するとともに、種々のサイズに対応可能なフレキシブルな設備としました。また、高効率生産のために投資効率を追求して年間80MWhの生産能力を実現しており、今後、産業用途のキーデバイスとして幅広い分野に展開していきます。

なお、本計画は経済産業省の「平成21年度低炭素型雇用創出産業立地推進事業費補助金」の対象事業として採択されています。

マクセルでは、ラミネート形リチウムイオン電池を中小型産業用途のコアデバイスとして提供し、様々な場面での社会イノベーション事業に貢献していきます。